



令和元年7月19日(金)



つつじが丘小学校
学校だより

つつじ



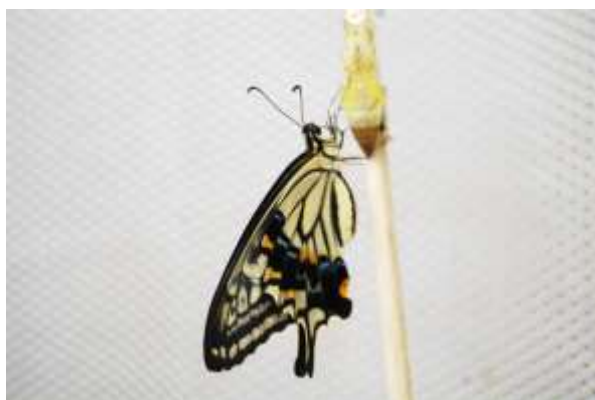
昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市



この夏、自分の心で決める学びを

校長 上田 祥市

梅雨が明けないまま一学期が終わる珍しい年になりました。この後、夏の陽射しが訪れると気持ちも一気に晴れやかになりそうです。梅雨明けが待ち遠しいですね。



先日の全校朝会で、3年生の「虫の学習」の紹介をしました。3年生の教室には、カブトムシやクワガタ、アゲハチョウにアリまで飼育していて、ちょっとした昆虫園になっています。教室に行くと、

子供たちがいろいろな虫を見せに来てくれて、解説が始まります。こうした子供たちの姿がこれから大切にしたい学びです。3年生のきっかけは、5月中旬の「プールでのヤゴ探し」でした。その後、多摩動物公園での「虫のプログラム体験」で一気に興味がわいて、虫嫌いだった子も昆虫に触れるようになりました。

「不思議だな」「なぜだろう」「おもしろい」という自分の興味関心を大切にして主体的に学ぼうとする子供たちは、自分で方法を考え、実行し、「わかった」や「できた」という達成感をもちます。自分で獲得した学びは忘れることはありません。

朝会の最後に、校長先生が一学期心に残ったニュースとして、「セミ成虫の寿命1週間は俗説！ 笠岡高校 植松さんが生物系三学会最優秀賞」を紹介しました。セミの寿命の長さに疑問をもった高校生の植松さんが、その疑問を解くべく、捕まえたセミの羽に油性ペンで番号をマーキングして放し、後日、再捕獲を試みるという調査を夏にほぼ毎日行い、計863匹にマーキング。15匹を再捕獲し、4匹を再再捕獲した結果、アブラゼミ、ツクツクボウシ、クマゼミの3種で10日以上以上の生存を確認したというニュースです。植松さんは小学1年生のころから虫に興味をもち、「そもそもセミの死骸を夏の間に見かけることが少ないのはなぜか」と“短命説”に疑問を持ったことがきっかけで、独自に調査をしたとのことでした。

夏休みの自由研究は、「不思議だな」「なぜだろう」「おもしろい」と思ったことを自分の心で決めて、自分なりに楽しんで取り組んでほしいと子供たちに伝えました。見ばえや内容を気にしたり周りに言われてやったりする研究ではなく、自分の興味のあるものを自分の力でチャレンジして、自分の学びにしてほしいと思います。